

科目名称	コミュニケーション論	学年学期	単位数	時間数
		第1学年 前期	1	30時間
担当教員	高橋平徳 松本雅美	授業に関わる 実務経験	<input type="checkbox"/> 有 () <input checked="" type="checkbox"/> 無	

【1】授業概要

対人コミュニケーションの理論と対人関係技法の基礎を学び、看護における様々な対象とのコミュニケーション能力を高める基盤とする。

【2】学習目標

1. 教育学の基礎的な理論を説明することができる。
2. 学習と指導のさまざまな技法を説明することができる。
3. 学習と指導の技法を、障害にわたって活用することができる。

【3】第1看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性

- 1. 人間を理解し、倫理的な態度で看護を実践する力
- 2. あらゆる対象に応じた看護を実践する力
- 3. 地域の特性を看護に生かす力
- 4. 保健・医療・福祉システムにおける連携・協働できる力
- 5. 主体的に学び続ける力

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	授業の概要説明、看護における学習と指導	講義・演習
2	学習の特徴、知識の学習、技能の学習、態度の学習	講義・演習
3	指導の設計、目標設定、適切な指導方法の選択、教材の準備	講義・演習
4	指導の構成、指導案、説明・発問・指示	講義・演習
5	評価の目的、評価の構成要素、さまざまな評価方法	講義・演習
6	動機づけの理論、学習意欲を高める具体的な方法	講義・演習
7	コーチング、非言語コミュニケーション	講義・演習
8	ディスカッションの方法、学習の3つの形態、経験学習	講義・演習
9	専門職の学習の特徴、学習の3つの形態、経験学習	講義・演習
10	授業のまとめ(中間試験)	
11	聴覚障害・聴覚障害者について、聴覚障害者のコミュニケーション方法について 実技:会話練習(1)挨拶	講義
12	手話について 実技:会話練習(2)自己紹介 名前(固有名詞)の表し方	講義
13	情報取得器官(主に視覚・聴覚)に障害をもつ人々に対する支援について 実技:会話練習(3)人物・家族等の表現方法	講義
14	聴覚障害者の現状 実技:会話練習(4)数詞を使ったいろいろな会話	講義
15	医療・介護現場の現状 実技:会話練習(5)時の表現(過去・現在・未来)、ポイント復習 試験・まとめ	講義

【5】評価方法

授業の中での学習活動への参加(30%)、授業のリフレクション(20%)、最終テスト(50%)

【6】教科書

中井俊樹・小林忠資編:看護のための教育学(第2版) 医学書院 2023
「手話コミュニケーション」(配布します)

【7】参考書

中井俊樹編「看護現場で使える教育学の理論と技法」メディカ出版 (2023年)
各授業中にワークシートを配布します。
「手話を学ぼう・手話で話そう」全国手話研修センター発行 2019年

【8】受講生へのメッセージ

講義の内容により、担当講師が変わります。

看護現場において、看護師はさまざまな対象とコミュニケーションを行うことが求められます。この授業では、時に学習と指導という教育学の観点から、コミュニケーションの基礎的な理論と技法を学び、看護におけるさまざまな対象とのコミュニケーションを円滑に行うための技能を身につけます。

聴覚障害者等、コミュニケーション弱者について理解します。コミュニケーションにおいて特別な配慮を要する対象者への支援方法、日常会話・医療・看護現場での頻出単語・会話の手話表現を学びます。